

人材育成の現場から



北海道立北の森づくり専門学院

あさひかわしにしかぐら
北海道旭川市西神楽

修学期間：2年間 定員：1学年40名

北海道立北の森づくり専門学院(略称:北森カレッジ)は、林業・木材産業の盛んな旭川市を拠点として令和2年4月に開校しました。当学院では、北海道の豊かな生態系をはぐくむ森林を守り育て、将来の世代に引き継いでいく、百年先を見据えた森林づくりを推進するという理念のもと、林業・木材産業の幅広い知識と確かな技術を身に付け、将来的に企業の中核を担う地域に根差した人材を育成することをめざしています。

北森カレッジの最大の特徴は、実習を中心とする現場での学びを重視した実践教育です。基礎的・専門的な知識や技術を段階的かつ体系的に学び、ICTなどの最新技術や、林業先進国フィンランドのシミュレーターを活用した高性能林業機械の操作、さらには北海道発祥の豊かな心をはぐくむ「木育」などのカリキュラムを用意しています。また、産業界や教育機関、研究機関、国、地方公共団体と様々な機関からのサポートを受け、外部講師の派遣や実習地の確保、インターンシップの受け入れなど在学中から卒業後までオール北海道で学生を支える教育体制を構築しています。

現在、CLT等の部材を取り入れ、道産木材をふんだんに使用した開放感のある新校舎を建築しており、令和3年4月から供用を開始する予定です。

北森カレッジでは、学生の皆さんに充実した学生生活を送っていただき、身に付けた幅広い知識と技術を活かして北海道の森林づくりを担ってもらえるようしっかりと取り組んでまいります。



第1期生集合



高性能林業機械シミュレーターによる操作訓練



初めての野外実習(樹木学)



チェーンソー実習



建設中の新校舎

人材育成の現場から



山形県立農林大学校

しんじょうしおおあざつのさわ
山形県新庄市大字角沢

修学期間：2年間 定員：1学年10名程度

山形県では、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として活用し、地域全体の活性化を図る『やまがた森林(モリ)ノミクス』を展開しています。山形県立農林大学校林業経営学科は、この取組みの担い手となる次世代の林業や木材産業のリーダーとなる人材を育成するため、平成28年度に新設された学科です。

本学科では、18科目の講義及び専攻実習、演習等を通して森林・林業や木材産業の知識、技術を習得するとともに各種資格を取得しますが、中でも卒業論文の時間は大きなウエイトを占めています。卒業論文は、学生一人ひとりが課題を設定し調査、取りまとめを行うことで専門的知識や技術の習得と課題解決能力の向上を図るもので、1年生の後期から計画作成に取り組み、主に2年生で現地調査、データ分析を行い、12月の卒業論文発表会を経て翌年の1月に卒業論文集として取りまとめます。

森林・林業の課題は1年で結果が出るものは少なく、先輩から後輩へと引き継がれる課題もあります。これまでの卒業論文では、「チマキザサが優占する実習林内広葉樹二次林の更新方法の検討」や「管内におけるツキノワグマによるスギ剥皮被害調査」、「効率的な利用間伐のための作業システム及び作業路網の検討」など、地域の身近な課題をテーマに取り組んできました。調査地は、実習林のほか間伐などの保育施業地や製材工場なども多く、森林組合や企業、森林管理署、県の研究機関からも協力を得ながら取り組んでいます。

卒業論文は、学校で学んだ知識や技術を駆使して取り組む2年間の集大成です。自ら立てた計画に基づき調査、分析を進める大変な学習ですが、卒業論文を通して得た知識や技術、課題解決能力は、社会人となってから大いに役立つものと確信しています。

【卒業論文調査の様子】



刈払後のチマキザサ回復状況調査



ツキノワグマによるスギ剥皮被害調査



ハーベスタによる伐倒範囲調査